

経営比較分析表

岐阜県 輪之内町

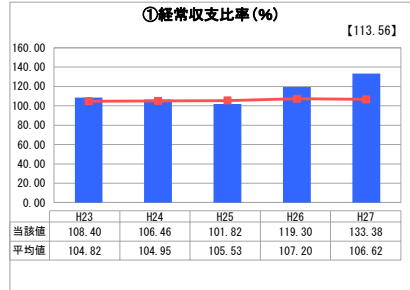
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.81	97.67	1,940

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,943	22.33	445.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,679	21.00	460.90

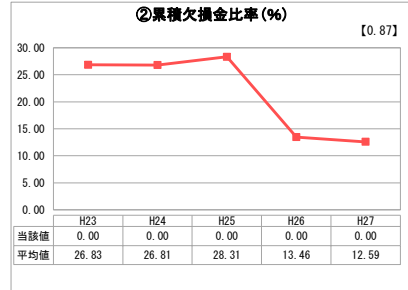
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

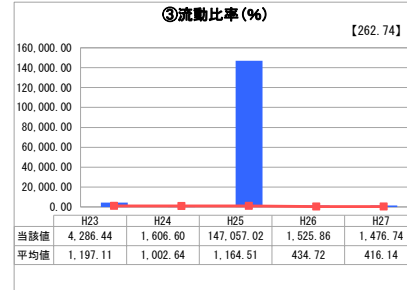
1. 経営の健全性・効率性



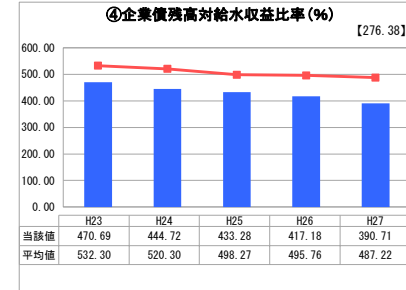
「経常損益」



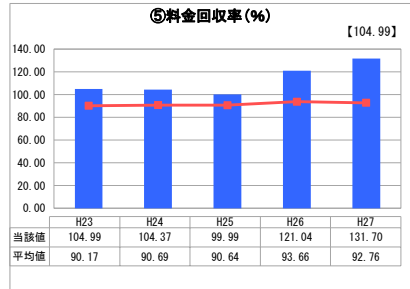
「累積欠損」



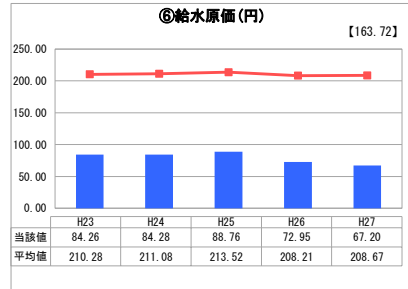
「支払能力」



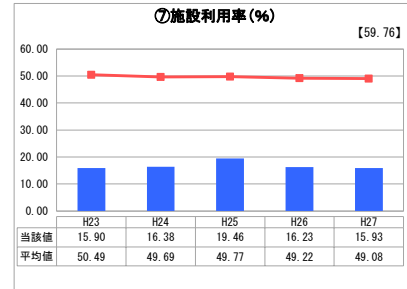
「債務残高」



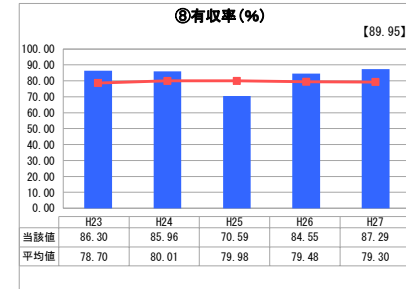
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

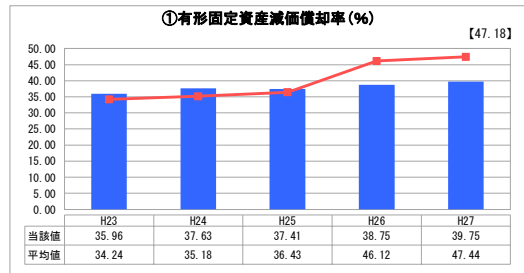


「施設の効率性」

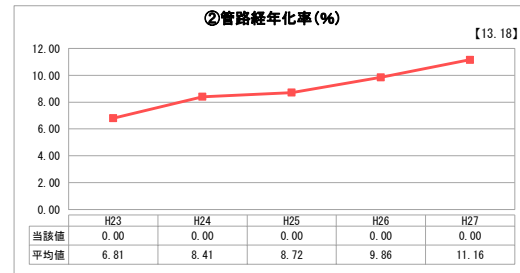


「供給した配水量の効率性」

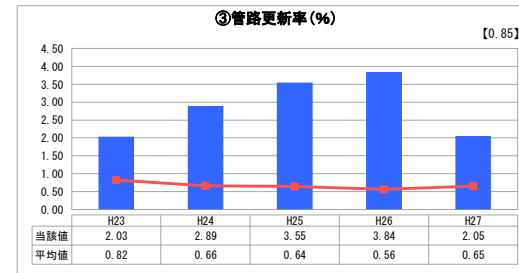
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

一般会計からの繰入金是最小限で、給水収益で維持管理費や給水にかかる費用を賄えているため、現在の経営状態は良好で、料金設定は妥当だと考えられます。

施設利用率が平均と比べて低いのは、輪之内町が水源地を2つ有しているためです。片方が故障してももう一方で給水できるようになっています。

有収率が平均よりも高い数値ですが、これは管路の更新率が平均よりも高いことが理由の一つと思われます。今後も管路を更新していくことにより、さらに高い数値になることが期待されます。

2. 老朽化の状況について

下水道管布設工事と合わせて計画的に効率よく水道管布設工事を行っています。平均と比べて管路更新率が高く、老朽化した管路はほとんどありません。

全体総括

現在は管路の更新を主として取り組んでいます。将来的には老朽化した水源地施設の更新が必要であることや、人口の減少によって給水収益が減る可能性があることを考えると、水源地施設のダウンサイジングや料金改定等、経営の方向性を検討する必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。